

2022 AUTOBACS SUPER GT Round.3

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI, N-RAK PHOTO AGENCY

# SUZUKA



## 2022 AUTOBACS SUPER GT 第3戦 たかのこのホテル SUZUKA GT 300km RACE

2022年5月28日(土)～29日(日)  
鈴鹿サーキット(三重県)

### 公式練習

5月28日(土) 天候:晴れ 路面:ドライ

第1戦岡山でポール・トゥ・ウィン、第2戦富士ではサクセスウエイトに苦しみつつも、荒れに荒れたレースで満身創痍ながら2ポイントをもぎとったTGR TEAM ENEOS ROOKIE。ポイントランキング首位のまま迎える第3戦の舞台は、三重県の鈴鹿サーキットだ。もちろんランキング首位ということもあり、ウエイトは最も重い状態が続いているが、第4戦までしばらく間が開くこともあり、前半戦のひと区切りとして第3戦を好結果で終えておきたいところだ。

迎えた5月28日(土)の鈴鹿サーキットは気温26℃と、初夏の陽気のもとで迎えた。重さが厳しい状態はあるが、タイトな鈴鹿では予選で前の位置につけることが重要。午後の公式予選に向けてセットアップを確認するべく、午前9時30分からの公式練

習に臨んだ。まず ENEOS X PRIME GR Supra は山下健太がステアリングを握りコースイン。3周目に1分47秒728というベストタイムをマークし、セットを確認していった。

山下は16周を走り ENEOS X PRIME GR Supra をピットに戻し、大嶋和也に交代する。セットアップも少しずつ改善しつつあり、好グリッド獲得に向けて重要な予選Q1突破の可能性が少しずつ見えはじめてきた。大嶋は交代後4周目に1分49秒135をマークした後、14周を走りふたたびピットイン。ニュータイヤを履いてのアタックシミュレーションを行うべく、ふたたび山下に交代した。

午前11時05分からのGT500クラスの専有走行の時間となり、山下は ENEOS X PRIME GR Supra をウォームアップさせていくが、これが

ら各車がアタックしようかというタイミングで、スプーンカーブ立ち上がり車両をとめた #38 GR Supra から火の手が上がってしまう。この消火のため即座に赤旗となり、そのまま公式

練習は終了となった。もちろんライバルも同様だが、ENEOS X PRIME GR Supra はどんなポテンシャルがあるのかははっきりとはしないまま、公式練習を終えることになった。



## 公式予選

5月28日(土) 天候:晴れ 路面:ドライ



迎えた午後3時18分からの公式予選。午前には続き天候は晴天で、気温は28℃まで上がるなか、いよいよGT500クラスの公式予選Q1がスタートした。第2戦富士では、非常にわずかなタイム差でQ2進出を逃しただけに、ENEOS X PRIME GR Supraの cockpit に座る山下も気合が入る。そんななか、コースオープンから6分後に山下はコースに入っていくと、タイヤを温め3周目にアタックラップに入っていた。

ENEOS X PRIME GR Supra はフィーリングも良好で、山下はテクニカルな鈴鹿を果敢に攻めていく。「自

分のアタックも決まった」という山下がマークしたタイムは1分45秒219。かなり良好なタイムだったが、サクセスウエイトが軽いライバルたちは、1分44秒台へ突入していく。ENEOS X PRIME GR Supraの順位が少しずつ下がっていき、終わってみれば8番手につけた#16 NSX-GTとは0.020秒差の9番手という順位。またも超僅差でQ2進出を逃すことになってしまった。

山下は悔しさをみせたが、大嶋は「よくがんばってくれたと思います」と山下を讃え、シングルグリッドに手ごたえを感じつつ、予選日を締めくくった。

## 決勝レース

5月29日(日) 天候:晴れ 路面:ドライ

迎えた5月29日(日)の決勝日。前日も初夏の暑さだったが、この日は気温が30度以上に上がり、路面温度もグングンと上昇する暑さのなか、午後1時10分、決勝レース前のウォームアップが始まった。チームは決勝レースに向けたセットアップを確認していくが、途中GT300クラスの車両がデグナー立ち上がりでクラッシュ。ガードレールにもダメージがおよび、走行はその場で赤旗中断となった。

セットアップを確認する時間が減ってしまったENEOS X PRIME GR Supraではあったが、それでも予定より15分遅れの午後2時45分に迎えた決勝レースで、スタートドライバーを務めた山下健太は、好フィーリングを得て序盤のレースを戦っていく。サクセスウエイトもあり、容易にオーバーテイクができるわけではないが、1周目に#12 Z GT500がトラブルで脱落、さらに4周目には#36 GR Supraがドライブスルーペナルティで

後退するなど、山下は5周目に7番手にポジションアップ。さらに混戦のなか、9周目に#39 GR Supraとの白熱のバトルを展開。これを制し、6番手まで浮上した。

山下はさらに前を走る#19 GR Supraにターゲットを定めるとバトルを仕掛けるが、相手はポールポジションスタートで速さもある。途中、GT300車両のクラッシュによるセーフティカーランなどを挟みながら、ウエイトの厳しさもあり、なかなか攻略できないまま序盤戦を続けていく。17周を過ぎるころになるとGT500でもピットインを行うマシンが出はじめる、TGR TEAM ENEOS ROOKIEでもタイミングをうかがっていた。

チームは23周を終えたところで、山下をピットに呼び戻した。迅速な作業で後半スティントを任せた大嶋和也を送り出す。ポジションは6番手。大嶋はさらなる上位を目指していくが、27周目の日立AstemoシケインでGT300車両に行く手をに阻まれるかたちとなってしまい、わずかにコースオフ。その間に#16 NSX-GT、#8 NSX-GTの先行を許してしまった。

とはいえ、33周目には#16 NSX-GTが二度目のピットインを強いられ、ENEOS X PRIME GR Supraの順位はふたたび7番手。その後も大嶋はあ



きらめず前を行く#8 NSX-GTを追っていくが、レース終盤、大嶋のペースが苦しくなり始めてしまった。

優勝を飾った第1戦岡山でも、レース後半は山下のペースが苦しくなり始めていたが、大嶋と順番を入れ替えても同じ症状が出てしまう。そんな状況を逃すまいと、大嶋の背後からは#24 Z GT500が迫ってきた。運悪く、レースは38周目にセーフティカーが導入され、集団のギャップは一気に縮まってしまった。

大嶋はリスタート後も少しでも良い順位を得ようと必死の防戦を試みるが、45周目、ペースに優る#24 Z GT500が先行。ENEOS X PRIME

GR Supraの順位は8番手となった。

最終的に、大嶋はそのまま8位でチェッカー。なんとか3ポイントをもぎとり、第3戦を終えることになった。ランキングでは、今回優勝を飾った#3 Z GT500と同点ながら2位だ。

とはいえ、ライバルたちもポイントを積み、少しずつサクセスウエイトも重くなってきている。ENEOS X PRIME GR Supraと同じ状況に近づきつつあるのだ。

そんななか、TGR TEAM ENEOS ROOKIEは今季はしっかりとポイントも重ねられている。次戦の第4戦富士まで2ヶ月超のインターバルがあるが、ここからが正念場だ。



## ドライバー／監督コメント



DRIVER **大嶋 和也** Kazuya OSHIMA

「今回、レースウィーク前にはもう少し上の順位を目指していたところもあるので、悔しい気持ちはありますが、やはりサクセスウエイトを考えると軽いライバルも多かったですし、仕方がないところもあります。ただ、クルマの面でもまだまだやれるところも多いので、課題がありますね。とはいえランキングトップタイは守ることができましたし、周囲もウエイトを積み始めてきました。今後は戦いやすくなるはず。暑いレースで出てくる問題も多いし、次戦までの長いインターバルでしっかり取り組んでいきたいです。特に今回、自分が後半スティントを担当しましたが、やはりレース後半に苦しくなる状況がありました。参考になることもあったと思いますので、しっかり改善していきたいですね」



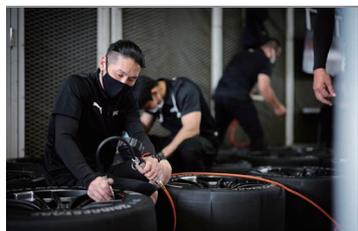
DRIVER **山下 健太** Kenta YAMASHITA

「公式予選ではギリギリでQ2に進出することができず、すごく残念でした。タイムも悪くないものだったのですが、0.020秒差と聞くとやはり悔しいです。こういった状況でもしっかりQ1を通れるようにしていきたいです。決勝では今年初めて前半スティントを担当しましたが、ペースは悪くないものでした。自力で1台をオーバーテイクできましたしね。#19 GR Supraをなかなか抜けなかったのは悔しいですが、サクセスウエイトの重さが響きました。一方で、今回大嶋選手に後半を担当してもらいましたが、やはりレース後半に苦しくなる状況で、そこに課題があると思います。今後長距離レースも多いので、その点が改善できればもっと良いレースができるはず。最低限のポイントを獲れましたが、もっと前を目指していきたいですね」



DIRECTOR **高木 虎之介** Toranosuke TAKAGI

「結果としては8位で、なんとかポイント獲得を果たすことができましたが、うまくいっていれば4～5位も見えていただけに、少し悔しいところはありますね。ですがこれもレースですし仕方がないです。サクセスウエイトが苦しい状況でのレースで、しかも全体的に僅差、荒れた展開の中でこうしてポイントも獲れましたし、前向きにとらえていきたいです。昨年まではこういった状況でポイントを獲得することができなかった。またランキング上位のライバルよりも先行できたこともプラス材料です。長いシーズンを考えたら、まだ同点でランキング首位と並んでいますし、今後の中盤戦でもしごとく、獲得できるときにしっかりとポイントを獲得するようなレースを続けていきたいと思います」



## SUPER GT 第3戦 鈴鹿サーキット リザルト

### 5月28日 公式練習 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time
1	23	MOTUL AUTECH Z	松田次生/R. クインタレツリ	MI	1'45.097
2	17	Astemo NSX-GT	塚越広大/松下信治	BS	1'45.222
3	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹/平手晃平	YH	1'45.499
4	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正/高星明誠	MI	1'46.150
5	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔/G. アレジ	BS	1'46.151
6	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ/宮田莉朋	BS	1'46.233
7	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀/福住仁嶺	BS	1'46.432
8	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京/大湯都史樹	DL	1'46.513
9	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也/大津弘樹	DL	1'46.717
10	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資/阪口晴南	YH	1'46.804
11	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴/B. バゲット	BS	1'46.811
12	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛/中山雄一	BS	1'46.892
13	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路/石浦宏明	BS	1'47.078
14	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴/牧野任祐	BS	1'47.333
15	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也/山下健太	BS	1'47.728

### 5月28日 公式予選 (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tyre	Time
1	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資/阪口晴南	YH	1'44.112
2	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ/宮田莉朋	BS	1'44.269
3	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正/高星明誠	MI	1'44.425
4	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京/大湯都史樹	DL	1'44.457
5	17	Astemo NSX-GT	塚越広大/松下信治	BS	1'44.653
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛/中山雄一	BS	1'44.925
7	12	カルソニック IMPUL Z	平峰一貴/B. バゲット	BS	1'45.662
8	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔/G. アレジ	BS	1'46.137
9	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也/山下健太	BS	1'45.219
10	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹/平手晃平	YH	1'45.233
11	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也/大津弘樹	DL	1'45.293
12	23	MOTUL AUTECH Z	松田次生/R. クインタレツリ	MI	1'45.360
13	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀/福住仁嶺	BS	1'45.388
14	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴/牧野任祐	BS	1'45.640
—	38	ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路/石浦宏明	BS	DNR

### 5月29日 決勝レース (GT500)

Pos.	No.	Car	Driver	Tire	Time/Gap
1	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	千代勝正/高星明誠	MI	1:55'50.895
2	17	Astemo NSX-GT	塚越広大/松下信治	BS	4.549
3	37	KeePer TOM'S GR Supra	S. フェネストラズ/宮田莉朋	BS	4.832
4	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口雄飛/中山雄一	BS	4.880
5	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本雄資/阪口晴南	YH	8.357
6	24	リアライズコーポレーション ADVAN Z	佐々木大樹/平手晃平	YH	10.429
7	8	ARTA NSX-GT	野尻智紀/福住仁嶺	BS	10.472
8	14	ENEOS X PRIME GR Supra	大嶋和也/山下健太	BS	13.278
9	100	STANLEY NSX-GT	山本尚貴/牧野任祐	BS	14.304
10	36	au TOM'S GR Supra	坪井翔/G. アレジ	BS	15.362
11	64	Modulo NSX-GT	伊沢拓也/大津弘樹	DL	17.764
12	23	MOTUL AUTECH Z	松田次生/R. クインタレツリ	MI	54.222
13	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原右京/大湯都史樹	DL	15 Laps
38		ZENT CERUMO GR Supra	立川祐路/石浦宏明	BS	42 Laps
12		カルソニック IMPUL Z	平峰一貴/B. バゲット	BS	51 Laps

### 2022 AUTOBACS SUPER GT

#### ポイントランキング (GT500・トップ 10)

Pos	No	Driver	Total	サクセスウエイト
1	3	千代勝正/高星明誠	26	52
2	14	大嶋和也/山下健太	26	52
3	100	山本尚貴/牧野任祐	20	40
4	17	塚越広大/松下信治	18	36
5	8	野尻智紀/福住仁嶺	15	30
6	23	松田次生/ロニー・クインタレツリ	15	30
7	36	坪井翔/ジュリアーノ・アレジ	13.5	27
8	37	サッシャ・フェネストラズ/宮田莉朋	11	22
9	39	関口雄飛/中山雄一	11	22
10	19	国本雄資/阪口晴南	10.5	21

#### ※サクセスウエイトについて

SUPER GT ではシリーズ創設当初から成績による性能引き下げのため、重りを積む独自のハンデシステムを使用しており、2021年からは「サクセスウエイト」という名称となっています。

2021年の規則では、GT500クラスでは第1戦から第6戦まで獲得ポイント×2kgを搭載しなければならず、参戦7戦目は獲得ポイント×1kg、参戦8戦目は獲得ポイント×0kgとなります。

GT500クラスでは車体の特性上、重りの搭載は50kgまでで、以降はエンジンに噴射する燃料の流量を減らす＝燃料流量リストラクターの数値を減らし、パワーを下げる事が併用されます。GT500クラスのサクセスウエイトの数値は下記のとおりです。しばしばチームやドライバーは出力ダウンの段階によって「1リズダウン」「2リズダウン」といった業界用語で表現します。

サクセスウエイト数値	0～50kg	51～67kg	68～84kg	85～100kg
車載ウエイト	0～50kg	34～50kg	34～50kg	35～50kg
燃料流量リストラクター	95.0kg/h	92.6kg/h	90.2kg/h	88.0kg/h

# ROOKIE RACING

**GT SUPER GT**

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

 **ENEOS**

**AISIN**

**d docomo  
business**

 **かいけつゾロリ**

**HAYASHI  
TELEMPU**

いつもさいしよ、アタラシイコト。  
**VITEC**  
Creative Power

**Rozetta**

 **SMBC**

 **KINTO**

**NSK**

**vūteq**

  
**TAMIYA**

 **asics**

 **ENKEI**



  
**CISCO**

 **EMC** **インパイヤ自動車**

**ThreeBond**